

令和6年度 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業実施要領

1 目的

三陸海域は、寒流と暖流の潮境であり、栄養塩が豊富で水環境も良好なことから、生物の生産性が高く、多様性にも富み、また、深海の日本海溝が近海にあるなど、海洋及び水産の研究フィールドとしての好条件を備えている。そのため、本県沿岸には海洋研究機関が集積し、全国から多くの研究者が集まり、様々な海洋及び水産研究が行われている。

そこで、各研究機関の相互連携のもと、三陸海域で研究を実施している若手海洋研究者に発表の機会を設けることにより、研究者の育成と更なる研究活動を奨励し、将来に向けた海洋研究拠点形成の礎を築くとともに、交流人口の増加を通じた地域振興を図ることを目的とする。

2 実施主体等

(1) 主催

岩手県

(2) 協賛（予定）

東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター、北里大学海洋生命科学部、岩手大学、
国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所

(3) 後援（予定）

宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市、大槌町、公益財団法人さんりく基金、
公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター、釜石商工会議所、宮古商工会議所、
大船渡商工会議所、久慈商工会議所、陸前高田商工会、大槌商工会、
一般社団法人海洋産業研究会、日本海洋学会、漂着物学会

3 対象研究等

(1) 対象とする研究は、次のア及びイに該当する研究とする。

ア 三陸海域（青森県八戸市から宮城県石巻市まで、内水面及び陸域を含む。）を含む地域を調査、
研究で、本県の水産振興に資すると認められるもの。

イ 海洋生物、海洋環境など、広く海洋に関するものであること。または、水産資源の増養殖や加工、
漁業経営及び水産史など、文理問わず広く水産振興に関するものであること。

対象分野例：海洋物理学、海洋化学、海洋生物学、海洋地質学、海洋工学、漁業学、水産資源学、
海洋環境学、水産史、水産経営学、水産経済学など

(2) 応募する論文は、未発表、既発表のいずれも可能とする。

4 部門及び賞の種類

「学生の部」及び「一般の部」の2部門を設け、次の賞を授与する。

(1) 岩手県知事賞

優れた内容と認められる研究に対して、両部門合わせて2名以内に授与する（賞状及び副賞）。

(2) 特別賞

今後の研究継続により、さらなる成果が見込まれる研究又は独創性が高いと認められる研究対
して授与する（賞状及び副賞）。

5 応募資格等

(1) 対象者は、以下のア、イのとおりとする。

ア 学生の部

日本国内の大学等または高等専門学校で4～5年次に在学する学生、大学院生。

イ 一般の部

日本国内の研究機関等（大学、公設試験研究機関等）に所属（非常勤、臨時職員を含む）する
45歳以下（令和6年4月1日現在）の研究者。

(2) 国籍は問わないこと。

(3) 共同研究である場合は、応募者が主体的に研究したものであること。また、応募に当たっては共 同研究者の了解を得ること。

(4) 応募できる研究は1人1題とすること。

(5) 賞を授与した後であっても、応募資格等がこの要領に定める要件を満たさないことが判明した場 合は、賞を取消すことがあること。

6 選考

選考は、有識者による選考委員会が行う。

(1) 第一次選考（論文審査）

ア 応募者から提出された論文をもとに審査し、両部門合わせて10件程度を選考する。

イ 実施時期は令和6年10月頃とする。

ウ 選考基準は次の(ア)～(エ)のとおりとする。

(ア) 研究目的が明確な問題意識に基づく適切なものか

(イ) 研究方法の実証性が担保されているか

(ウ) 三陸海域の海洋特性や生態系の理解促進、三陸海域の諸問題の解決に資するか

(エ) 学術的に高い水準が確保されているか

(2) 第二次選考（口頭発表審査）

ア 第一次選考通過者による口頭発表をもとに審査し、第一次選考の審査結果と合わせて各賞の受賞者を選考する。この場合の交通費等は、県が支給する。

イ 実施時期は、令和6年11月頃とする。

ウ 口頭発表の時間は1人あたり30分（発表20分、質疑10分）とする。

エ 選考基準は次の(ア)～(オ)のとおりとする。

(ア) 論文の学術的水準

(イ) 論旨の明確さ

(ウ) 質疑応答の的確さ

(エ) プレゼンテーション資料の完成度

(オ) 研究の拡張性・発展性

7 応募

(1) 募集期間

令和6年4月～8月末まで

(2) 応募方法

応募書類は別紙のとおりとし、郵送又は電子メール等にて事務局へ送付すること（締切日必着）。

(3) その他

応募書類は返却しない。

(4) 問い合わせ・提出先（事務局）

岩手県 ふるさと振興部 科学・情報政策室内

（令和6年度岩手県三陸海域研究論文募集係）

住所：〒020-8570 盛岡市内丸10-1

電話：019-629-5252 E-mail：marine-con@pref.iwate.jp

8 受賞者の公表等

(1) 受賞者の氏名、所属及び論文の内容は、マスコミ等を通じて公表する。

(2) 受賞者には、12月に開催予定の表彰式または2月に開催予定のいわて海洋研究コンソーシアム連携会議において発表を要請することがある。この場合の交通費等は、県が支給する。

9 その他

(1) 実施主体等が応募書類を目的以外に使用することはない。

(2) この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

応募書類の仕様

1 応募者プロフィール（様式1）の仕様

- (1) 論文タイトル、応募区分、氏名、生年月日、年齢（令和5年4月1日現在）、所属、職名、指導教授等の氏名、連絡先住所、メールアドレス、電話番号を記載すること。
- (2) 実地調査した場所と期間を記載すること。また、実地調査の場所はできるだけ詳しく記載すること。
- (3) 応募した研究の発表歴（未発表・既発表）を記載すること。既発表の場合は、発表した学会名等も記載すること。

2 アブストラクト（様式2）の仕様

- (1) A4で4枚とし、タイトル、所属及び1字空けて氏名、ショートアブストラクト【要旨】、アブストラクト【本文】の順に記載し、それぞれ1行ずつ空けること。
- (2) 各頁は1枚あたり1,600字以内（基本フォーマットは40行×40字）とし、文字は明朝体11ポイント、1頁目については次の(3)～(6)の指定に従うこと。
- (3) タイトルはゴシック18ポイントで2行以内とすること。
- (4) 所属及び氏名はゴシック14ポイントで右寄せ2字空けとすること。
- (5) 「ショートアブストラクト【要旨】」及び「アブストラクト【本文】」との見出しを設け、いずれもゴシック12ポイントとすること。
- (6) ショートアブストラクトは200字以内とすること。
- (7) 読みやすくするために、適宜改行し、番号等を付すこと。
- (8) 図表の使用は可とすること。

3 その他

- (1) すべての提出書類は日本語に限ること。
- (2) 応募書類は、Microsoft Wordで作成すること。

岩手県三陸海域研究論文 知事表彰事業

三陸海域は、寒流と暖流の潮境であり、栄養塩が豊富で水環境も良好なことから、生物の生産性が高く、多様性にも富み、また、深海の日本海溝が近海にあるなど、海洋及び水産の研究フィールドとしての好条件を備えています。岩手県では、三陸海域における海洋及び水産研究の活性化を目的として、若手研究者を対象に、岩手県三陸海域（内水面及び陸域を含む。）に関する論文の表彰事業を行っています。

応募資格

- 学生の部：日本国内の大学等または高等専門学校等の4～5年次に在学する学部生、大学院生
一般の部：日本国内の研究機関等に所属（非常勤、臨時職員を含む）する45歳以下の研究者

対象研究

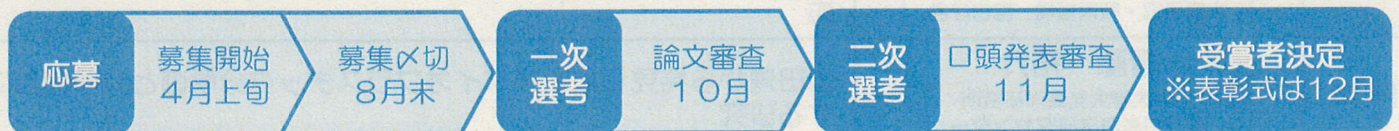
- 三陸海域含む地域を調査・研究したもので、岩手県の水産振興に資すると認められるもの
- 文理問わず、広く水産振興に関するもの
【対象分野例】海洋物理学、海洋化学、海洋生物学、海洋地質学、海洋工学、漁業学、水産資源学、水産養殖学、海洋環境学、水産加工学、水産史、水産経営学、水産経済学 など
- 応募する研究内容は、既発表、未発表のいずれも可能

賞の種類・賞品等

岩手県知事賞	特別賞
三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容と認められる研究	今後の研究継続により、さらなる成果が見込まれる研究又は独創性が高いと認められる研究
賞状及び副賞 旅行券5万円分	賞状及び副賞 旅行券2万円分

スケジュール

例年のスケジュールは次のとおりです（事情により前後する場合があります）



募集や応募状況等は、岩手県ホームページ、メールマガジン「いわて海洋研究コンソーシアム通信」等でお知らせします。

なお、メールマガジン登録を希望の方は、メール本文に氏名・所属を記入し、下記アドレスに送付願います。

E-mail : marine-con@pref.iwate.jp

<いわて海洋研究コンソーシアム通信とは>

いわて海洋研究コンソーシアムに参画する海洋研究機関等の最新の話題やイベント情報などを、電子メールで毎月11日に配信しています。

※いわて海洋研究コンソーシアムの主な参画海洋研究機関

東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター、北里大学海洋生命科学部、岩手大学、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所、岩手県水産技術センター

岩手県知事賞歴代受賞者

※過去10年間の受賞者

年度	受賞者（所属）	タイトル
H27	福岡 拓也 〔岩手生物工学研究センター〕	三陸沿岸域に夏期限定で来遊するアオウミガメ
	和川 拓 〔東京大学大気海洋研究所〕	岩手県沖合域の水塊変動と沿岸域の表面水温の予測可能性
H28	米原 善成 〔東京大学大気海洋研究所〕	滑空する海鳥の飛行経路から海上風を推定する
	筧 茂穂 〔水産総合研究センター 日本海区水産研究所〕	秋季におけるワカメ養殖場への栄養塩供給予測
H29	松本 有記雄 〔東京大学大気海洋研究所〕	飼育に適した微細藻類によるエゾアワビ種苗生産技術の開発
H30	小玉 将史 〔水産研究・教育機構 東北区水産研究所〕	大槌湾の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態
	山田 美和 〔水産研究・教育機構 東北区水産研究所〕	大船渡湾から単離した微生物によるマンニトールを原料としたバイオプラスチックの生合成
R01	森谷 大樹 〔東京大学大気海洋研究所〕	海藻成分を資化してバイオプラスチックを合成できる大船渡湾より単離した新規微生物
	佐藤 信彦 〔岩手大学農学部 応用生物化学科〕	大槌における鳥によるサケ稚魚食害について
R02	増永 英治 〔岩手大学大学院 総合科学研究科〕	三陸沿岸海域に伝播する内部潮汐に関連する諸現象
	清水 大輔 〔東京大学大気海洋研究所〕	緑色LED光照射でホシガレイの成長促進 その仕組みと品質評価
R03	飯野 佑樹 〔茨城大学 地球・地域環境共創機構〕	岩手県沿岸域に降海したサケ稚魚の成長と運動のエネルギー配分に関する研究
	松本 有記雄 〔水産研究・教育機構 宮古庁舎〕	荒天時のアワビの一斉産卵を促している可能性があるフェントン反応
R04	齋藤 祐介 〔東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター〕	山田湾から発見した新規バイオプラスチック分解菌と分解酵素に関する研究
R05	根本 真夕 〔岩手大学大学院 総合科学研究科〕	廃棄された貝殻をpH調整剤として利用したグリコール酸の微生物合成
	池上 隆仁 〔国立研究開発法人 海洋研究開発機構〕	北日本沿岸海域のコンブ類を用いた海水中の放射性ヨウ素-129濃度指標に関する研究

【お問合せ先】

岩手県 ふるさと振興部科学・情報政策室内（令和6年度岩手県三陸海域研究論文募集係）

住所：〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

Tel： 019-629-5252 E-mail：marine-con@pref.iwate.jp